

JSR 株式会社
2023 年 3 月期年度決算説明電話会議 議事録
(2023 年 4 月 27 日開催)

決算補足資料:

https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/134186/00.pdf

P3 全体サマリー :

- ・FY22 実績は YoY 増収減益。DISP と PLA の需要環境悪化が減益の主要因。又 FY21 は Inpria 買収の評価益など特殊要因あり。特殊要因除いたベースで SEMI は増収増益。LS も増収増益。
- ・今回ノンコアとして SEMI 分野で事業構造改革関連として減損費用その他を反映。
- ・FY23 業績予想は対 FY22 で増収増益。大幅な回復を見込む。LS が増収増益を牽引。DS は SEMI 市場の需要調整を折り込み、対前年ステイのイメージ。DS は FY22 後半から FY23 と調整で FY24 へ V 字での成長軌道への弾込めを想定。
- ・FY24 の中計最終年及び持続的成長へ向けた戦略的な取り組み。SEMI は需要回復期に向け、先行投資継続とシェア拡大、構造改革を集中的に推進。LS は KBI の新工場のフル稼働化と収益改善のプロジェクト。FY22 に完了した M&A による CRO の新事業の取込。
- ・FY24 中計では最高益更新と利益率向上を目標としている。目標を確実に達成するために、事業構造改革やコスト削減、効率化を進めていく。

P4 決算のポイント : FY22 実績

(通期のコア営業利益) YoY 増収減益。

DS : 特殊要因除き 75 億円減益。SEMI は増収増益。EUV/MOR の先行投資は拡大。将来成長への道筋をつけた。DISP/EC が市況の大幅悪化により減収減益で全体の減益要因となった。DISP は 10 月より需要は回復に転じている。

LS : 大幅な増収増益。MBL の抗原検査キットの好調。KBI の新工場が下期に商業生産を開始し 4Q までに 13 バッチの生産を完了。

PLA : 増収減益。自動車市場の回復遅れ。原料、燃料価格の高騰によるマージン悪化。価格転嫁による利益率の改善を進行中。

(コア営業利益から営業利益への調整)

- ・ノンコアの構成要素として計-47 億円を計上。

洗浄剤工場減損 : SEMI の事業環境悪化による収益見通しの低下に伴い、米洗浄剤工場の簿価をほぼゼロまで減損。今回減損を契機に、米国の洗浄材関連 R&D 拠点の閉鎖を含む大幅な規模縮小のリストラを実施する。米工場は FY20 に稼働開始も、昨年度需要減少に伴う立上げ遅れにより一部減損した。今回事業環境を精査し抜本的な対応をとることにした。洗浄剤は当社になかった新材料でありポートフォリオ拡大の参入成果は出た。当初特定顧客での立上げを企図したが、他の米国内外の顧客で採用実績も出ており、グローバルな戦略の再構築を行う。一旦規模縮小でコスト削減を実施する。

韓国拠点評価益：戦略的拡大に向けた構造改革。昨年度に当社が出資する現地代理店を完全子会社に取り込んだ。買収に絡む当社持分の評価益の計上。これにより韓国顧客向けの販売、技術サービス含むコミットメントを大幅強化。外部流出したマージンも内部に取り込むことが可能となる。又、台湾、中国でも現地機能強化も集中的に取り組み、FY24以降の成長力強化につなげる。

P5 決算ハイライト YoY, QoQ

(YoY) 増収減益、(QoQ) 減収減益

YoYについては前述のとおり。QoQで減収減益。SEMIは顧客の大幅な在庫調整の影響。特に4Qは実需要より大幅に売上が減少。1Qは通常に戻る見通し。LSは主にMBL抗原検査キットの販売タイミングによる売上減少。その他事業の減収は基本的に季節性や売上タイミングによる。基本的に4Qの売上利益の減少はこれら要因であり特に4Qに向け需要減速のトレンドが発生した訳ではない。

P6 セグメント別損益：デジタルソリューション事業

(YoY) 減収減益

SEMIの販売増による数量差はプラスで発生したが、DISP、ECの販売減、又、SEMIを中心とする先行投資の増加、その他特殊要因による減益。

(QoQ) 減収減益

・売上減による減益。SEMIが為替込みで-24%の減少。顧客の在庫調整の影響。DISPは季節性で顧客稼働が3Q対比減少、3月以降稼働が拡大している。

P8 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

(YoY) 増収増益

・各サブセグメントで売上が大幅に拡大。
・IVDが大幅売上増。MBLの抗原検査キットの販売が拡大した。CDMOは先行投資のため減益。CROは増収も今回M&A関連の費用計上により利益は前期並みに留まる。

(QoQ) 減収減益

・主に抗原検査キットの販売タイミングによる減収。計画通り。
・CDMOは増収増益となった。
・その他事業は主に売上タイミングによる減収。

P9 9 セグメント損益 合成樹脂事業

(YoY)増収減益

・販売数量減及び受払差等の会計要因により減益。原料価格の高騰あるも、販売価格の改定も進み、売買スプレッドには大きな影響なし。

(QoQ)減収減益

- ・販売量が QoQ 減少。自動車、産業資材周りで若干回復に遅れ。価格改定進み売買マージンは拡大。固定費の発生差による減益。

P10 決算のポイント:FY23 業績予想

FY23 のコア OP は 420 億円。YoY+20%超の大幅な利益回復。LS が利益成長を牽引。DS は YoY ほぼフラット。FY24 の成長へ向けて弾込めの年とする。

(SEMI)

- ・対面市場はマイナス成長。売上はほぼ YoY フラット。投資増により減益。
- ・FY24 の成長に向け構造改革、先行投資、シェア拡大を行う。
- ・主要材料のシェアは安定的に推移。EUV 等の先端分野でのシェアは拡大しており中期見通しは良好。

(DISP)

- ・FPD パネル市場はパネル在庫の適正化により安定回復を見込む。光配向膜、OLED 材料のシェア拡大。

(EC)

- ・当面需要環境は弱いが回復方向。赤外線カットフィルターのシェア拡大による売上成長見込む。

(LS)

- ・KBI は新工場が FY23 後半にフル稼働の見通し。通期では大幅な YoY 増益を達成する。
- ・KBI 社内で収益性改善へ向けた改革プロジェクトも開始。FY23 は通期で一桁の OP 率に留まるが FY24 には OP 率 20%を目標に活動を推進する。
- ・MBL 抗原検査キットは FY22 の売上からは縮小するが継続。受注確定分のみを FY23 計画に織り込んだ。
- ・CRO は Indivumed のバイオバンク事業を M&A により Crown に取り込み、FY23 から利益貢献を見込む。

(PLA)

- ・自動車市場の回復と売買スプレッドの改善により利益は大幅に回復見通し。

P11 通期業績予想

- ・売上収益を 4,420 億円、コア OP を 420 億円を見込む。
- ・FY23 計画及び FY23 実績より、LS 事業のサブセグメントの売上収益を開示する。

P12 経営環境 FY23 の見通し

(SEMI)

- ・SEMI 市場は FY23 前半は調整局面が続き、後半から FY24 にかけて市場回復を見込む。FY24 は力強い成長を見込む。当社事業はシェア拡大により市場を上回る成長を見込む。
- ・当社の EUV はシェア拡大。ロジック 3nm でのシェア獲得に続き 2nm でも同規模かそれを上回るシェア確保の見込。DRAM ではナンバー1 のシェア確保。今後顧客での適用が本格化する。MOR も顧客評価は好

調に進捗。ArF、KrF、下層膜、CMP 等でも良好な競争ポジションを維持している。

- ・先行投資は FY23 も拡大するが、比較的大規模なものは当年度がピーク。FY24 は過去 2 年に対し固定費増加の水準は緩和される見通し。
- ・米洗浄剤事業の大幅縮小を実施するが、当社の SEMI 事業全体の成長ストーリーに変更なし。構造改革により中長期的成長を確実にしていく。

(DISP)

- ・市場は回復基調が継続し、売上、利益は順調に拡大していくことを見込む。光 IPS、OLED でシェア拡大を達成しており、FY23 より売上拡大に寄与していく。

(EC)

- ・スマホ市場は強くないがシェア拡大がプラス影響になる。コスト縮減に一層注力し損益改善を進める。

(LS)

- ・需要は堅調。FY23 は KBI の損益の改善効果を見込む。
- ・KBI のコロラド工場は足元大幅修繕を実施。売上回復は 1Q 後半から。KBI の新工場は段階的に稼働を引き上げ下期にはフル稼働へ向かう。FY24 はコロラド工場、新工場とも通期でフル稼働を維持。更に構造改革により OP 率を 20%まで引き上げていく計画。
- ・MBL は下期に抗原検査キットの受注確定分の販売を見込む。
- ・CRO は一部バイオテックベンチャー企業中心に需要減速を想定するが、新規 CRO 事業の取り込みも含め成長継続。

(PLA)

- ・自動車市場の回復及び売買スプレッドの改善を見込む。

(その他)

- ・コストは抑制を行った FY22 レベルを維持。DX 投資は加速。
- ・又全社の各事業について製品の収益性を点検し必要なアクションを実施する計画。

P13 業績見通しに関する市場前提

- ・今回の通期業績予想修正に関わる市場の見立ての変化。

(シリコンウエハインプット)

- ・FY22 はほぼ成長なし。後半に減速した。FY23 は通期では-5%の成長を前提に予算を策定した。FY24 は+14%と 2 桁超の回復を見込む。

(パネル生産)

- ・FY22 はパネル生産が-19%で大幅下落。FY23 は+12%の安定回復。FY24 も回復継続を見込む。顧客の稼働率も FY22 に一時 60%を割るも、FY23 は 80%弱、FY24 は 80%中盤と、好調であった FY21 並みまで段階的に戻る見通し。

(スマホ出荷台数)

- ・FY22 のマイナス成長から FY23 はプラス成長へ徐々に回帰。

(自動車生産)

- ・半導体不足により市場回復は遅れたものの、今期安定的な成長を見込む。

(バイオ市場)

- ・バイオ市場全体では堅調な成長が継続する。

P14 半導体材料事業：固定費推移

- ・SEMI は FY22 に Inpria の統合を含む戦略投資を拡大。FY23 も EUV/MOR への投資、四日市での能増等を進める。韓国拠点の連結化やその他アジア拠点の強化は、将来成長に加え、販売体制の効率化につなげる。
- ・その他インフレによる諸経費、人件費の増加、燃料費の高騰等を見込む。構造改革を含むコスト削減効果も計画に織り込む。
- ・FY24 も将来成長への投資は継続。一方大型投資は想定なく先行投資のペースは緩和の見通し。

P15 ライフサイエンス事業：KBI 新工場 生産計画の進捗

- ・KBI のノースカロライナ工場の立上げ状況を示すために、生産バッチ数を棒グラフで示し、又現状の要員計画ベースでの生産キャパシティを折れ線で示している。
- ・内容は 3 月の LS 事業説明会から基本的に変わらず。FY22 の 4Q までに計 13 バッチの生産を完了した。足元も順調に生産活動が拡大している。今週から新しい製品(プロダクト 2)の生産も開始予定。Q3 から Q4 に向けフル稼働に向かう。収益改善プロジェクトの実行により、生産要員を大きく増やさず、生産バッチの拡大及び生産キャパシティそのものの拡大を図り収益性の改善を達成していく。

P16 中期経営方針

- ・当社のビジョンは、持続的成長によりすべてのステークホルダーに価値を創造すること。そして、環境変化に適用する強靱な組織をつくること。これらの活動を通じ、中長期的に企業価値の向上を実現していく。
- ・事業ポートフォリオは DS (特に SEMI) と LS をコアとし、この 2 事業がトップライン成長と ROIC の成長を牽引する。ターゲットとしては、FY24 に最高益を更新する。

P17 中期経営方針-進捗

(事業ポートフォリオ)

- ・エラストマー事業譲渡を 2022 年 4 月 1 日に完了。コア事業への戦略的投資を強化。具体的には FY21 の Inpria 買収、今回の CRO 分野での買収等。

(事業目標)

- ・FY24 の最高益更新の目標については、持続的な成長の通過点として達成を目指す。又営業利益率の改善も確実に進めていく。
- ・短期的な需要悪化に対するコスト削減、構造改革による基盤強化。

(組織強化)

- ・サステナビリティの取組強化、又将来の利益拡張に貢献する戦略投資、DX 等の投資を推進。

(資本配分)

- ・資本配分においては FY21 に増配及び FY22 に自社株買いを実施。資本配分方針は変更なしも足元は営業 CF の改善に注力する。

(事業戦略)

- ・前述の通り、DS では SEMI は最先端分野への投資、又グローバルな基盤強化への投資を積極推進。DISP は最適な事業体制により OLED 等新材料の展開に注力。
- ・LS は KBI の新工場立上げとマージン改善に注力。FY23 に続き FY24 も利益を牽引していく。CRO 分野ではシナジーを拡大する。
- ・半導体の需要調整の期間に、全社的に各事業の収益性を再点検し、必要な措置を実施する。そして FY24 の中計達成を確実にする。

【表記注記】

デジタルソリューション	: DS
半導体材料事業	: SEMI
ディスプレイ材料事業	: DISP
エッジコンピューティング	: EC
ライフサイエンス	: LS
合成樹脂	: PLA

以上